

クローズアップ NGO・NPO

(認定) 特定非営利活動法人

日本ハビタット協会
理事・事務局長 伊木 常昭

住環境とコミュニティーを良くする事業を世界で展開

日本ハビタット協会とは

「ハビタット」とは「住まい」を表す言葉です。住まい、居住環境は私たちの暮らしに欠かせない大切な要素です。私たちは、住まいとともに給水、排水、ゴミ処理などの基本インフラを整え、持続可能な住まいと居住環境の実現を目指します。雇用、教育、医療など、生きるうえでの権利が守られ、安心して生活できる場の実現を目指します。

世界には災害、紛争、貧困、急激な都市化などにより、適切な住まいで暮らせない人々が非常に多いのです。日本ハビタット協会は、悪化した居住環境を改善し、疲弊したまちを復興し、安全で安心な暮らしを築けるよう支援をしています。

当協会は国連ハビタットのパートナー団体として国連ハビタットと協力しながら活動しています。国連ハビタットは、世界の人々の幸せを「まちづくり」の観点で考え、居住権を守るために行動する国連機関です。

当協会は多くのボランティアのご協力をいただき活動しています。私たちの支援団体である「ハビタット・フレンズ」が日本各地および海外の拠点で活躍しています。

主な支援事業

日本ハビタット協会は2001年に設立以来、アフガニスタン、スリランカ、パキスタン、カンボジア、インドネシア、アフリカ諸国、ミャンマー、ハイチ、タイ、ラオス、日本で支援事業を行って

きました。

現在実施中の支援事業

●ラオスでの植林事業

ラオス北部のルアンプラバンは世界遺産に登録されて世界中から観光客が訪れ、ルアンプラバンと周辺の地区は急速な経済発展が続いています。その一方で、森林の伐採が進み、森林の面積が40%まで減少したと報告されています。環境破壊が進み、給水にも支障が出ています。日本ハビタット協会は、ルアンプラバン給水公社と協力して、2012年4月から植林活動により人々の暮らしと自然を守る事業を実施しています。

2012年7～9月、ルアンプラバンから約40km北のパクウーとパクチェックで168人の村人と協力して21.5ヘクタールの面積に8,200本の植林を行いました。保水に役立つ樹木だけでなくマンゴーなどの果樹も植林し、村人の暮らしに役立てるとともに、実を売って得た収入の一部で新しい苗木を購入して植林活動の循環を促します。



住民参加による植林活動

パクウー中学校で環境保全意識を高めるワークショップを開催し、生徒と教職員合わせて1,224人が参加しました。人数が多かったため、3日間に分けての青空教室となりました。質疑応答をし



環境意識を高めるワークショップ

ながら、生徒たち一人ひとりが1日にどれくらいの水を使い、食物を食べているのかを考えました。自分たちの暮らしがいかにより自然との共生で成り立っているのかを知る機会となりました。

種まきの方法も学び、種から苗木を育て、育てた苗木を山へ移植していくという持続可能な植林活動が実現しました。また、教職員にとっても環境教育を考える機会となり、これからは学校での環境教育が続くこととなります。

村人、自治体、給水公社、教育局、農林局そして学校を構成員とするネットワークがつくられ、地域が主体となり事業が継続されていきます。

●復興の桑事業

東日本大震災の津波で、東北地方太平洋側の農地は大きな被害を受けました。がれきとヘドロは除かれましたが、畑の塩害は残ったままです。日本ハビタット協会は、東京農業大学の長島教授のご協力、仙台市若林区荒浜海岸近くの津波の被害が特に大きかった畑に桑の木を植えて地域の復



2011年4月の仙台市若林区の様子



2012年5月に植えた苗木が10月には収穫できるまでに成長

興と再活性化をはかる事業を実施しています。桑の葉にはミネラルなどが多いうえ、糖分の吸収を阻止する特有の成分があり、近年では健康食品として注目されています。

2012年5月に挿し木で植えた76本の苗のうち75本が、10月初めには170cmの高さまで育ちました。無農薬で育てられた桑を10月10日に刈り取り、その日のうちに抹茶のようなマイクロパウダーにしました。健康茶のほか、ケーキやクッキーに加工し商品化しました。

2013年から桑の木7,000本を植えて本格的に事業化します。葉の加工、販売も含む6次産業としての事業です。日本ハビタット協会は、この事業によりコミュニティが再活性化するよう支援を続けます。



桑茶や洋菓子などの商品開発・販売